

令和元年度 横浜美術館 指定管理者業務評価表(外部評価)

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
1 経営	<p>【評価できる点】</p> <p>コレクションを基にしたオリジナルの企画展を海外に巡回させることは、文化輸入過多の日本にとっても理想的な事業展開である。国際的な事業を執行するにあたって、海外インターンの受け入れは美術館の基盤の強化にも役立つので継続を望む。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨコハマトリエンナーレ2020準備の一環としてプレイベントを開催するなど着実に準備を進めました。 ・写真コレクション展をナショナル・ギャラリー・オブ・カナダで開催し、国際都市横浜の魅力を海外に発信できたことは海外巡回の具体的成果として大いに評価したい。 ・広報については露出件数、ウェブサイトアクセス数とも前年度を上回りよく健闘しています。 ・外部連携については、美術館の専門性を活かし、専門館や外部諸施設との連携によるオリジナリティの高い事業を実施しています。 	<p>【評価できる点】</p> <p>財団指定管理下の他施設との協力が効果的に行われました。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>政策目標(経営)「横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します。」の達成をめざし、カナダでの写真コレクション展の開催、ヨコハマトリエンナーレ2020に向けたプレイベントの開催など、着実に成果をあげていると思う。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>ヨコハマトリエンナーレについてプレイベントを含め、着実な準備を進めることで翌年度の新型コロナ禍での開催につなげた。カナダでの写真コレクション展の開催も、これまでの尽力の成果として評価できる。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>横浜トリエンナーレのような、評価の高い大規模な国際美術展を開催するためには、開催主体の予算および人事的な充実が必須である。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修後の新たなステージのさらなるビジョンを明確に描くとともに、休館中の外部連携にも、国際都市としての認識をもって、工夫を以て臨んでいただくことを期待します。 	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>財団管理下の施設を代表する施設として、長期的な経営計画を市民に常に発信してもらいたいと思います。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>海外でのコレクション展を開催したことを国内でもアピールすべき。周知しなければ、せっかくの成果も日の目を見ないで終わってしまう。今後は、市民や関係者、社会に対して、具体的な成果も含めて説明責任を果たすよう心がけてほしい。今後、海外との連携強化を図り、展覧会だけでなく調査研究やデジタルアーカイブなど多面的な国際交流事業を無理のない範囲で発展させていってほしい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>大規模改修を好機と捉え、ハード、ソフトともに新・横浜美術館として、さらなる国際的なプレゼンスの向上を図るとともに、市民に愛されかつ創造的刺激を与える美術館のあるべき姿を追求、実現していただきたい。新型コロナへの対応については、来場者にとって安心、安全な美術館であることはもちろん、新型コロナが現代社会に与えたインパクト、価値観の変容に美術館としてどのように向き合っていくべきかを視野に入れた企画、経営が求められるのではないか。</p>
2 事業 ①	<p>【評価できる点】</p> <p>実施した展覧会で入館者目標を上回り、学芸員の専門的な論文が評価されるなど、充実している。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Meet展、原展、オランジュリー展と、コレクションに焦点をあて、独創性や地域性に加え経営面もふまえての多様な企画展が実施されており、来館者数の増加、鑑賞者の満足度も高く、大いに評価できます。 ・特筆すべきこととして、前年度開催の駒井展の企画、論文に対する高い評価を得て、学芸員片多祐子氏が第31回倫雅美術奨励賞を受賞されたことは発信力の面からも優れて評価に値します。 	<p>【評価できる点】</p> <p>年度末の2ヶ月を除けば、30周年にふさわしい成果が得られた1年間であったと思います。企画展が好調でした。原三溪展は、市民の関心が高かったようです。写真コレクションについても、カナダでの巡回展が行われました。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>開館30周年記念として開催された3つの企画展はそれぞれに独自性があり、「コレクション」のあり方や価値の多様さ、おもしろさを伝えることができる内容であったと思う。政策目標(事業①)「質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を拡げます。」の達成に向けて、30周年記念事業にふさわしい質の高い事業内容であった点を高く評価したい。また、1年間の事業を通して、改めて横浜美術館の存在意義を周知させ、来館者の裾野を確実に広げることができた点も高評価とした。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>Meet the Collection、原三溪とも横浜美術館ならではの企画で、いずれも担当学芸員のキュレーション・ワークの光る内容だった。企画展全体で目標を上回る入場者数を達成したことも評価できる。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>新聞社の事業部の財政的な基盤が弱くなり、上質な展覧会の開催が困難になる中で、入館者数に左右されない、美術館の理念に沿った企画展の開催が必要。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・New Artist Picks2019のコロナ禍、延期にみるように、災害等、不測の事態における美術館の対処方針やあり方、鑑賞者との双方向性をどう担保するか等(例えばオンライン発信等)もケースバイケースになるとは思いますが、検討課題として取り組むことを期待します。 	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>写真コレクションの海外巡回は、継続的に行うことが理想的です。今年度の実施から得られたノウハウや課題を分析していただきたいと思えます。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>若手作家支援(NAP)が延期になってしまった点は残念なことであった。今後は、何らかの実績を残せるよう、展示以外の形態での事業展開も計画に盛り込んでいくことを検討してほしい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>メディア共催のオランジュリー美術館コレクション展は、20万人を超える入場者数を達成し、集客面で大きな成果をあげたが、メディアとの共催展が東京に集中し、新型コロナの影響で海外の美術館展が難しくなる中で、「集客面での目玉企画」を今後どのように展開していくべきか、知恵を出して横浜美術館らしさを追求していただきたい。</p>

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
2 事業 ②	<p>【評価できる点】 他館とのコレクションを基にした企画展を実施するなど、コレクションの活用についてはどこの館よりも善処していると思う。</p>	<p>【評価できる点】 ・コレクション展は企画展と連動して見応えがあり、来館者数も目標を大きく上回り、魅力ある展覧会の実施には人が集まることを証明しています。 ・コレクションによるパッケージ展の国内巡回について、次々年度共同企画館に巡回が決定しており、コレクションの活用が着実にすすまれています。 ・所蔵映像資料のデジタル化について、今後5年間を見据えて、撮影、デジタル化、ウェブサイト公開の計画と策定は未来への継承に取り組む具体として評価できます。 ・美術情報センターの特別資料展示鑑賞者数増加は、誘導サイン等の工夫もですが、魅力ある展示が来館へといざなうことの成果の表れだと評価します。 ・文化資産であるコレクションを各種取り組みを以て、市民によく還元できています。</p>	<p>【評価できる点】 コレクション展の集客力が高まっています。5か年の収蔵計画も立てられており、これまでに蓄積された魅力的なコレクションを活用し、継承していくという政策目標を達成できています。</p>	<p>【評価できる点】 来年度以降、休館中においても、政策目標〈事業②〉「魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。」の達成をめざし、事業を推進している点を高く評価したい。令和元年度は、コレクションを展示活動だけでなく、デジタルアーカイブとして活用できるよう積極的に取り組んだ点も大いに評価したい。</p>	<p>【評価できる点】 コレクションの撮影、デジタル化を着実に進めることは、コレクションの価値を高めさらなる普及につながる成果として評価できる。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】 しかし、コレクションとは常に収集し続けるべきものであり、特に現代美術を扱っている美術館にとって、購入予算の充実は必須。予算的見地であれば、少なすぎる。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】 ・コレクションの、未来への継承のために調査研究にあたる学芸員の関与、最適な環境整備についても更なる取り組みを検討をしていただくことを期待しています。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】 愛知県美術館では、コレクション展フロアで、前年度に収蔵した若手による作品に限定した展示室がありました。常設なのかどうか未確認ですが、来館者にわかりやすいと思いました。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】 デジタルアーカイブの構築が国内外で急速に進み、相互に連携し、さまざまな場面で活用できる基盤(プラットフォーム)整備も進んでいる。横浜美術館もジャパンサーチなどに参加し、多くの人々に活用してもらえるデジタルアーカイブに成長してほしい。 また、著作権法の規定があり、画像をアップできないため、掲示できている作品のサムネイル(画像の見本)が少ないことは残念であるが、著作権法をクリアしている画像はすでにアップしていることを利用者に伝えるべきではないだろうか。告知によって利用者の不満を解消することもでき、美術館の取り組み姿勢を伝えることもでき、一挙両得と言える。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】 コレクション画像をHPで見られるだけにとどまらず、「オンラインの美術館体験」をいかに魅力的なものにしていくかが、新型コロナウイルスによってより重要かつ喫緊の課題になっていると思われる。美術情報センターの機能を強化して「デジタル美術館戦略センター」的な取組を展開することはできないか。欲を言えば、オンラインで完結することなく美術館訪問、ホンモノの体験につなげる仕掛けや仕組みも重要。</p>
2 事業 ③	<p>【評価できる点】 横浜美術館の教育普及事業はとても充実している。</p>	<p>【評価できる点】 ・鑑賞教育については、企画展やコレクション展との連動により、多様で魅力的な鑑賞機会を市民に提供、美術の価値を市民に還元し、公立美術館の使命を果たしていることを高く評価します。 ・子どもの創造支援事業については、ガラス造形作家はじめ多彩なアーティスト連携を実現するなど意欲的な取り組みが行われています。 ・教育普及の観点による「絵でたどるペリー来航」展示の実施は、これまでの教師との研究、ボランティアによる街歩きツアー等着実な取り組みの蓄積が成果として表れており高く評価できます。</p>	<p>【評価できる点】 多彩なプログラムが実施されており、将来の成果が期待されます。</p>	<p>【評価できる点】 政策目標〈事業③〉「美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます。」は、新たな取り組みも実践しつつ、今年度も確実に達成できている点を評価したい。 教育普及の観点からの展示(成果発表)が実現できたこと、ボランティアによる街歩きツアーや館内でのトークなどが研修を受けた後で活性化していること、展覧会とアトリエ事業の連携や共同制作が成果をあげていること、コレクション・フレンズが徐々に増えていることなど、多くの実績をあげていることに拍手を送りたい。</p>	<p>【評価できる点】 横浜美術館の強みである教育普及系の事業について、鑑賞教室、子どものアトリエ、市民のアトリエとも着実な成果をあげている。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】 休館中の発信のあり方が、特にエデュケーション・プログラムにおいて問われる。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】 ・休館中と大規模改修後をスムーズに繋ぎ、休館中も市民との双方向性を保ち、子供向けの創造支援事業等の質をアウトリーチやリモート等を用いるなどして低下させない工夫の検討が大切です。 ・市民協働の認識が定着し、ボランティアの自主的意欲が伸びつつあると思われる中、大規模改修、コロナ禍はありますが、改修中、改修後と持続可能な工夫が検討されることを期待します。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】 特になし</p>	<p>【更なる取組を期待する点】 横浜美術館協会のあり方検討については、現状を踏まえつつ、会員制度や市民協働のあり方や利用者サービスの観点など、館全体の運営を見据えた上で検討していただきたい。また、新たなメンバーシップ制度として名称の変更も併せて検討が好ましいのではないかとと思う。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】 教育普及事業は継続と積み重ねに加えて、新たな発想や取組も重要。これまでの成果に安住することなく、新機軸にもチャレンジしていただきたい。</p>

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
3 施設の運営事業①	【評価できる点】 カレンダーが表彰されるなど健闘している。	【評価できる点】 ・様々な人々に開かれ、トークや来館者案内など細やかな配慮と設えを以ての美術館運営を評価します。 ・開館30周年記念事業におけるカレンダーの全国展受賞など、来館者サービス、カフェ事業における付加価値の向上等、横浜美術館らしさを表現しつつ健闘されています。	【評価できる点】 グランドギャラリー、ショップ、カフェで、美術館の企画と連動したイベント、商品販売が行われました。	【評価できる点】 政策目標「お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います。」をめざし、継続的にサービス改善に向けている点を評価したい。また、30周年記念事業として制作した記念カレンダーの質の高さも美術館としての力量が感じられる。	【評価できる点】 記念カレンダーの受賞は嬉しいニュース。
	【更なる取組を期待する点】 大規模改修にあたって、来館者サービスはそもそも何かということを検討しても良いのではないか。	【更なる取組を期待する点】 ・大規模改修後は、コロナ禍も経験し、新たなステージを迎えることから、効果的、サステナブルな事業運営の図を描いていただくことを期待します。	【更なる取組を期待する点】 特になし	【更なる取組を期待する点】 ソーシャル・インクルージョン(クリエイティブ・インクルージョン)の観点から、ソフト面では、特別支援学校向けの講座、学校プログラムでの特別支援学校等の受入れ、病院・福祉施設・高齢者施設へのアウトリーチ活動に取り組んでいることを、財団だけでなく、美術館の活動としても紹介しアピールすべきだと思う。大規模改修後は、ソフト・ハード両面でクリエイティブ・インクルージョンに取り組む美術館像を全面的に押しだし、独自性を生み出してほしい。	【更なる取組を期待する点】 大規模改修により、ハード、ソフトの両面からさらなる顧客サービスの向上に期待しています。
3 施設の運営事業②	【評価できる点】 シンポジウムや記念行事など、質の高い多彩な事業を行なっている。	【評価できる点】 ・開館30周年に、国際シンポジウムや記念書籍発行、グッズ制作など多彩な事業を展開し、事業を通して横浜美術館30周年の意味づけを発信できたことを評価します。 ・施設管理については適正に行われています。	【評価できる点】 計画に沿った運営が行われました。	【評価できる点】 政策目標「財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します。」をめざして、継続的に努力している点を評価する。また、30周年記念事業として多様な取り組みを実施し、どれも成果をあげている。これは、職員全員が一丸となり、かつ個々人が持てる力を発揮した証しだと思う。お疲れ様でした。	【評価できる点】 政策目標の達成に向けた着実な取組がうかがえる。
	【更なる取組を期待する点】 持続可能な運営を実現するために、より強固な財政基盤が必要。	【更なる取組を期待する点】 ・ファンレイジングについては前年度実績を下回っており、今後に向けて寄付の体系の見直しを検討していただくことを期待します。	【更なる取組を期待する点】 特になし	【更なる取組を期待する点】 横浜美術館が法人と協働で芸術の発展を推進するHEART to ARTというプログラムを行っていることが周知されていないと思う。まずは周知させ、パートナーを募っていくべきでは。また、協賛のあり方も、経済的支援の他に、人的支援・物的支援・技術支援などさまざまである。形を決めつけずに協力しあって何ができるかを検討していくことを推奨したい。	【更なる取組を期待する点】 大規模改修と連携した企業や個人からの寄付、協賛金などの方法を検討できないか。
4 その他の業務	【評価できる点】 経営努力は十分にされていて一定の成果を挙げている。	【評価できる点】 ・計画通りに実施できています。	【評価できる点】 適切に運営されました。	【評価できる点】 政策目標「政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します。」に沿って、管理運営を進めていると思う。	【評価できる点】 特になし
	【更なる取組を期待する点】 美術館内格差問題がおきないように、全職員の正職員化が必要。	【更なる取組を期待する点】 ・休館を経て、大規模改修後新しいステージを迎えるにあたり、引き続き最適な管理運営施策の検討を期待します。	【更なる取組を期待する点】 特になし	【更なる取組を期待する点】 達成指標をアウトプットの回数だけでなく、アウトカムの指標も検討してほしい。満足度については、主要事業については入れてほしい。また、横浜市の他の文化施設ではやっていないにしても、政策協働型指定管理者制度を掲げているのであれば、中長期でも事業評価を独自に行ってほしい。年度毎の評価では、継続している事業を真に評価しているとは言えない。特に文化事業は短期では成果が出ないものが多いことは周知のこと。ぜひ、横浜市文化振興課と横浜市芸術文化振興財団で取り組んでほしい。	【更なる取組を期待する点】 特になし

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
7 収支計画	【評価できる点】 経営努力は十分にされていると思う。	【評価できる点】 ・企画展の助成金獲得や集客好調により事業収入が黒字決算となるなど、収支の安定を評価します。	【評価できる点】 ・ホームページの「計画・報告」のページに収支決算書・予算書がわかりやすく開示されています。 ・年度の自主事業収入と自主事業費が内容的に対応しているか否かは別として、「自主事業収入1単位当たりの自主事業費」(=自主事業費/自主事業収入)という尺度でみると、(第2期)指定管理期中期第1期、2期、3期で最も良好な数値となっています。	【評価できる点】 企画展が好調で収益を上げたこと、今後の運営に活かせる設備投資を行う判断したこと、さらに黒字決算であったことを大いに評価したい。	【評価できる点】 特になし
	【更なる取組を期待する点】 コロナ禍の現状では、自主財源の強化はますます困難になっている。美術館の公共的価値をもう一度見直し、市からの予算増額が必要。	【更なる取組を期待する点】 ・改修後の新たなステージにむけて指定管理料について横浜市と美術館双方の早急な調整が必要と思われます。	【更なる取組を期待する点】 財団が管理する11の施設の中で指定管理料が最大であり、財団の運営に与える影響も大きいことから、さらに収支を意識した運営を期待します。将来の展開のための投資(企業の研究開発投資的な支出)は、人的な投資も含めて行われていると思います。そうした投資支出は、その年度の事業収入と対応させる事業費ではないとも考えられます。外部への開示は要求されていないとしても、財団内部で分析することは必要であると思います。	【更なる取組を期待する点】 継続できるよう、創意工夫で美術館運営に取り組んでいただきたい。	【更なる取組を期待する点】 特になし

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
総括	美術館としての多彩な事業と、国際的に評価されるトリエンナーレ他の取り組みは日本を代表する美術館として評価できる。より充実した事業を展開するために、事業担当者の自由な発想を事業化するために、組織的・財政的バックアップが必要。	今年度、多様な企画の運営実施が総じて着実に進められ、結果見事な成果につながりました。多彩で質の高いプログラムの提供は、美術館、市民、アーティストの文化芸術サイクルを見事に循環させています。とりわけ開館30周年記念としての3つの企画展、Meet展、原展、オレンジリー展などコレクションに焦点をあて、コレクションの特質を魅力的に展示紹介し、横浜美術館の存在感と奥行きを示す事業実施がなされたことは高く評価できます。海外巡回展としてのカナダでの写真展開催、国際シンポジウムなど国内外への活動発信、アウトリーチや地域連携など、開かれた美術館として、各セッションごとにきめ細やかな取り組みが展開されました。経営面においても、30周年記念の企画展における助成金確保、集客増、更に記念カレンダー販売など各種事業の結実として、収支も黒字安定となりました。開館から30年の蓄積、及び未来にむけてのたゆまないチャレンジにより、横浜美術館は今や市民にとって愛着と誇りの文化拠点としての定着をみており、きたる改修後の新たなステージにむけてますますの期待が膨らみます。	長期計画に基づいた政策協働の観点から横浜市から要求されている多面的な活動での成果を挙げています。館長のガバナンスの下、効果的な組織運営がなされていると思います。AIがアートの分野にも影響を与えるであろうことは、言わずもがなであると思いますが、休館期間を利用して、そうした今後・近未来の美術館像についても検討していただければと思います。	今年度も継続して、政策目標の達成をめざし、30周年記念にふさわしいすばらしい事業内容であったと思う。横浜美術館の独自性を活かした企画展やコレクション展の開催、コレクションを活かした国内外での展覧会の実施や計画・準備、デジタルアーカイブの整備、職員やボランティアの成長が実感できる活動成果など、大規模改修による休館も視野に入れ、中長期的な観点から戦略的に取り組んでいる点を高く評価したい。 2019年度末からの新型コロナウイルスのパンデミック(世界的流行)によって、文化事業や文化施設の外部環境は一変した。今後は、来館という形態に縛られない利用形態によるサービスも創意工夫で行っていくことが求められている。また、美術館自体のあり方や事業のあり方の見直しについても迫られていると言えよう。大規模改修を契機に、横浜美術館らしさを大切にしながらも事業転換や体制の見直しを慎重に検討し、美術館事業の推進を図っていただきたいと思う。	開館30周年を迎え、企画展、コレクション展、教育普及活動とも、30年間の実績と積み重ねに基づいた着実な成果をあげている。大規模改修を契機に、これまでの実績や成果を踏まえつつ、同時にそれに捕らわれることなく、新館長の下で、横浜美術館としての新たな戦略や事業、運営の展開を期待したい。

令和元年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

<p>使命</p> <p>(1)国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2)美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3)未来をにう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4)文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。</p>

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績

評価項目	令和元年度計画			実施状況		説明	
	項目	目標の実践	達成指標	実績	目標		
<p>1 経営</p> <p>政策目標(経営)横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します。</p>	1	(1)横浜トリエンナーレ [重点的な取り組み]	●ヨコハマトリエンナーレ2020の準備	実施	—		
	2	(2)海外への発信 [重点的な取り組み]	●コレクションパッケージ展あるいは企画展の海外巡回	H33・34実施に向けた準備	1回/年	—	・10/11-3/22(3/14以降新型コロナウイルスに関連し休館)当館写真コレクション展@ナショナル・ギャラリー・オブ・カナダ
	3		●海外インターン受入	1回/年	1回/年	B	・10/5 受入実施(JICA・民博)
	4		●日英での展覧会の会場パネル、カタログ作成	1回/展	1回/展	B	・会場パネルは冒頭パネルと章パネルを日英併記 ・カタログは概要、奥付、挨拶、作品リストを日英併記
	5		●日英での紀要の発行[再掲]	1回/年	—	—	・3月 発行(サマリーを日英併記)
	6		●外国人団体向けボランティア・トーク[再掲]	1回/年	—	—	
	7		●日英での展覧会プレスリリース作成	1回/展	1回/展	B	
	8		●海外メディアへの展覧会プレスリリース送付	1回/展	1回/展	B	
	9		●海外VIPへの展覧会招待状送付	1回/展	1回/展	B	
	10		●海外来館者の把握	通年	通年	—	(H28.4以降継続実施)
	—		●国際シンポジウム開催(開館30周年記念事業)[再掲]	1回/年	—	—	
	11	(3)広報	●展覧会および全館広報などの通常業務	—	—	—	
	12		□露出件数	700件/年	3,045件/年	A	
	13		□ウェブサイトアクセス数	4,700,000件/年	6,338,782件/年	A	
	14		●首都圏と横浜の各々に焦点をあてた広報	1回/年	1回/年	B	・首都圏: MOT割引(Meet展) ・横浜: 三溪園割引(原展)
	15		●ウェブを活用した全館広報	1回/年	1回/年	B	・4月 30周年記念ウェブサイト公開
	16		(4)外部との連携	●専門館連携あるいは外部連携をしつつ、専門性を活かした横浜市推進事業との連携し、オリジナリティの高い事業を実施	4回以上/年	5回/年	B
<p>2 事業</p> <p>政策目標(事業①)質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を広げます</p>	1	(1)企画展	●Meet the Collection【会期:4/13-6/23・62日間】	3.3万	39,804人	A	
	2		●原三溪の美術【会期:7/13-9/1・44日間】	5万	76,654人	A	
	3		●オランジュリー美術館コレクション【会期:9/21-1/13・93日間】	20万	223,878人	A	
	4		●企画展アンケート	4.0以上/年	4.51/年	A	
	5	(2) New Artist Picks	●New Artist Picks 入場者数	3,000人(メイン会場)	0人	C	・3/14-4/12柵瀬茉莉子展 延期
	6		把握	展覧会后5年間の作家の活動を	1回/年	1回/年	B

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <p>・ヨコハマトリエンナーレ2020にむけて、プレイベントであるエピソード00を11月に横浜で開催するなど、来年度の展覧会に向けて準備をすすめています。</p> <p>【課題】</p> <p>・大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、ヨコハマトリエンナーレ2023への美術館の関与の仕方について、市と美術館の両方の早急な調整が必要です。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・ヨコハマトリエンナーレ2020に向けて、年間を通して着実に準備を進め、取組の一環としてプレイベントを開催した点を評価します。 ・コレクションの海外巡回については、写真コレクション展をナショナル・ギャラリー・オブ・カナダで開催し、横浜美術館の価値を海外発信した具体的成果として評価します。 ・広報については、露出件数、ウェブサイトアクセス数とも前年度より増加し、着実な取組が認められます。 ・外部との連携では、専門性を活かして多様な施設、機関等と連携して事業を行った点を評価します。</p>
<p>【成果】</p> <p>・海外巡回については、10/11-3/22(3/14以降新型コロナウイルスに関連し休館)にて、当館写真コレクション展をナショナル・ギャラリー・オブ・カナダで開催しました。日本経済新聞(6/28)での特集「ミュージアムとコレクション」や日本経済新聞回顧(12/10)で「入超」の日本において果敢な試みとして本展が取り上げられるなど、美術関係者の注目も集めました。 ・大規模改修後の実現に向け、引き続き、海外巡回展を企画し、巡回先への打診を継続します。</p> <p>【課題】</p> <p>・大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、海外インターンの実施については、館の方針にそって改めて検討します。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・海外巡回、海外インターン等の取組を通じて、継続的・組織的な国際交流の枠組みが構築されることを期待します。 ・広報について、大規模改修後を見据えた継続的な展開の検討とともに、首都圏・横浜のターゲット層に対して効果的に届く手法の検討を引き続きお願いします。</p>
<p>【成果】</p> <p>・首都圏・横浜向けに重点をおいた展覧会毎の広報に加え全館広報を展開し、露出件数、ウェブサイトアクセス数ともに目標を上回りました。</p> <p>【課題】</p> <p>・大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、館の方針にそった効果的で継続可能な広報を館内で検討します。</p>	<p>【成果】</p> <p>・当館の専門性を活かし、横浜市、財団内施設、文化組織、企業等との連携による事業を実施し、当館の活動を広げています。</p> <p>【課題】</p> <p>・大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、館の方針にそった効果的で継続可能な外部との連携を館内で検討します。</p>
<p>【成果】</p> <p>・来場者数については、企画展合計の目標28.3万人に対し、実績は340,336人(120%)と、計画を上回りました。 ・今年度の企画展はコレクションに焦点をあて、Meet展、原展、オランジュリー展を実施し、特に原展は毎日新聞回顧(12/19)においてパトロンに焦点を当てた好企画として高階秀爾氏による3選に選出され、美術関係者から評価されました。 ・なお、昨年度開催した駒井展の企画およびカタログ中の論文が評価され、本展を企画した当館学芸員の片多祐子が「第31回倫雅美術奨励賞」の「美術評論部門」を受賞しました。</p> <p>【課題】</p> <p>・大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、メディア等と応分出資し事業予算の規模を大きくして大量集客を目指す展覧会の開催が、様々な要因で困難になってくると思われます。来館者数の一定の確保・維持とそれによる周辺への賑わい効果をあげていくための事業の在り方を市と協議しつつ検討します。 ・大規模改修後の無料空間での展示については、館の方針にそった効果的で継続可能な展示を館内で検討します。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・企画展については、Meet展、原展、オランジュリー展とも目標を上回り、集客が安定していました。いずれの企画展も「横浜美術館開館30周年記念」を掲げ、横浜美術館、原三溪、オランジュリー美術館それぞれのコレクションに焦点を当てるというテーマ性も感じられ、アンケート結果からは来館者の期待にも応えられていた点も確認できました。 ・横浜美術館の役割を果たすとともに、安定的な事業が行われていると評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、来館者の安全・安心の確保と美術館の役割の実践、安定的な経営の確保をどのように並立していくか、検討が必要です。 ・横浜美術館での若手作家支援の場が維持され、若手作家の目標とされる枠組みとなることを期待します。 ・大規模改修後を視野に入れた特色づくりに期待します。</p>
<p>【成果】</p> <p>・New Artist Picks 2019として、3/14-4/12にて開催する予定だった柵瀬茉莉子展は、新型コロナウイルスに関連し、翌年度に延期しています。 ・大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、館の方針にそった効果的で継続可能な若手作家のための展示を館内で検討します。</p>	

令和元年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

<p>使命</p> <p>(1)国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2)美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3)未来をにう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4)文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。</p>

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績

項目	評価項目	目標の実践	令和元年度計画		実施状況			
			達成指標	目標	実績	説明		
政策目標(事業②)魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。	(1) コレクション	(1) コレクション	●コレクションの形成、保存に関する通常業務	実施	実施	—	・10/29 内部検討委員会 ・12/6 収集委員会 ・3月 前年度目録発行	
			●コレクションの活用	—	—	—		
			・1期【会期:4/13-6/23・62日間】	3.5万	43,950人	A		
			【会期:7/13-9/1・44日間】	5.19万	85,419人	A		
			・2期【会期:9/21-1/13・93日間】	20.42万	227,545人	A		
			・コレクション展アンケート	4.0以上/年	4.29/年	B		
			・コレクション展広報物の作成	1回/年	1回/年	B	・9月 コレクション展2期&ペリー展チラシ	
			・コレクション画像撮影と公開	撮影	実施	—	・6月 撮影計画決定 ・12月 撮影・デジタル化完了(今年度分) ・3月 公開(今年度分)	
			(2) 美術情報センター	●収集、分類、保管、利用者提供などの通常業務:利用者数	30,000人/年	42,248人/年	A	
			14	●普及のための事業	5回/年	5回/年	B	・3/29-7/10特別資料展示(30周年記念) ・7/12-9/18展覧会連動企画特別資料展示(原展) ・9/20-4/1展覧会連動企画特別資料展示(コレクション展2期・開港160周年) ・1/12一般向けトーク[再掲:市民のアトリエ] ・2/15市立高校向け研修7人
					●所蔵映像資料デジタル化	作業計画/著作権クリア	実施	—
			—	●国際シンポジウム開催(開館30周年記念事業)[再掲]	1回/年	—	—	
15	(3) 調査・研究	●紀要の発行(論文3本以上,日英併記,販売検討)[再掲:日英併記]	1回/年	—	—			

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <p>◇コレクションの形成 ・収集方針に基づいて、収集候補作品を提案しました。 ◇コレクションの保存 ・定期的な収蔵庫内の点検と清掃を実施し、庫内環境の保全に努め、収蔵庫の状況について現状の課題を市と共有しました。 ・新収蔵品のデータを登録し、目録として公開し、広く研究に貢献しました。 ◇コレクションの活用 ・コレクション展合計の目標29.1万人に対し、実績は356,914人(123%)と、計画を上回りました。 ・なお、コレクションによるパッケージ展の国内巡回については、今年度の実施はないものの、来年度のトライアログ展が再来年度2つの共同企画館に巡回する予定です。また大規模改修中に、当館コレクションを館外展覧会として実施できるよう、協議を進めています。 ・そして、コレクション作品画像については、6月に、大規模改修を含めた今後5年間の撮影と公開の計画を策定しました。コレクションのうち必要と考えられる約3,600点の撮影、コレクションポジフィルム約1,850点のデジタル化、そして、コレクション画像約900点のウェブサイト公開を目指しています。この公開が実現しますと、昨年度に実施した約1,700点の公開と合わせ、著作権がないもの・著作権料がかからない全作品が公開されることとなります。今年度の撮影・デジタル化は12月までに、公開も3月までに完了しています。</p> <p>【課題】</p> <p>・大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、館の方針にそった効果的で継続可能なコレクション活用を館内で検討します。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・コレクション展については、企画展と連動して集客が目標を上回り、大きな成果を挙げました。 ・横浜美術館のコレクションがトライアログ展を共同企画する愛知県美術館、富山県美術館への巡回が決まったことは、コレクション活用の観点から評価します。 ・コレクション作品画像の撮影、デジタル化、ウェブサイト公開に向けた計画を策定し、着実に実施していること、美術情報センターの所蔵映像資料デジタル化を進めていることを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・大規模改修期間中にコレクションや美術情報を国内外で活用できるよう、取組の検討を引き続きお願いします。 ・美術館の休館期間を活用した調査研究の一層の充実を期待します。</p>
<p>【成果】</p> <p>・美術情報センターでは、30,000人の目標に対し、42,248人(141%)と計画を上回りました。この要因は、原展会期中に、展示室から大きなパナーで誘導サインがあり、また、特別資料展示をご覧になる熱心な鑑賞者が多かったためです。 ・普及のための事業のうち研修については、従来大学向けに行っていたものを、教育委員会と連携して市立高校向けに改変して2月に実施し、その高校生は当館ボランティアとして活動しました。 ・そして、所蔵映像資料デジタル化については、6月に、大規模改修を含めた今後4年間の計画を策定しました。教育ビデオ約850件について精査し、著作権の確認とクリーニング後にデジタル化を行い、大規模改修後に新機器での公開を目指しています。</p> <p>【課題】</p> <p>・大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、館の方針にそった効果的で継続可能な美術情報センターの事業を館内で検討します。</p>	
<p>【成果】</p> <p>・職位に応じて、事業および通常業務の遂行においてOJTを実施し、専門的知見とスキルの伝達および習得に取り組みました。 ・研究紀要では、紀要(サマリー)の日英併記を徹底し、一層の発信強化を実現しています。</p> <p>【課題】</p> <p>・大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、館の方針にそった効果的で継続可能な調査・研究を館内で検討します。</p>	

令和元年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

<p>使命</p> <p>(1)国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人を訪れる魅力的な美術館になります。 (2)美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3)未来をになう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4)文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。</p>
--

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績

評価項目	令和元年度計画			実施状況		
	項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明
政策目標(事業③)美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます。	16	(1)教育プログラム:鑑賞教育 [重点的な取り組み]	●企画展	5回/展	7~9回/展	B ◇Meet展:7回 ・ギャラリートーク:5/4,17,18(アーティスト),6/1,2(アーティスト),21 ・その他:6/12ジュニアワークシート(ウェブダウンロードあり) ◇原展:8回 ・ギャラリートーク:7/26,8/12,16,17 ・講演会:7/20,21 ・その他:8/9ジュニアワークシート(ウェブダウンロードあり),8/10横浜雙葉中高茶道部呈茶 ◇オランジュリー展:9回 ・ギャラリートーク:10/11,11/1(ミニレクチャー),11/22,12/20(ミニレクチャー),12/23(クロストーク) ・講演会:9/21,11/16 ・その他:8/26ポケモン鑑賞ガイド(オランジュリー展*ウェブダウンロードはなし),10/18ピアニスト×学芸員スペシャルトーク
	17		●コレクション展	5回/展	5~16回/展	A ◇1期:5回 ・ギャラリートーク:7/26,8/9,23 ・中高生プログラム:6/16,7/7,28,8/4,11,18,25,9/8,11/3,24 ・その他:6/5K2インターナショナル鑑賞会 ◇2期:16回 ・ギャラリートーク:9/27,28,10/11,25,26,11/4,8,16,22,12/7,13,27,1/10 ・講演会:9/23 ・特別支援学校向けプログラム:12/4,13
	18		●人材育成事業	2回/年	3回/年	B ・教師向け鑑賞ガイド(ウェブダウンロード):5/25,6/22,12/7 ・アートティーチャーズデー:5/11,10/26 ・教師向け研修:4/24,5/8,7/26(横浜市芸術文化プラットフォーム),11/6,22,2/19
	追加		・その他【追加実績】	—	1件	A
	—		●ボランティアによるトーク	—	—	—
	19		・個人向け	1回/年	42回/年	A ◇個人向け ・6/21,23街歩き(原展) ・10/8,15,20,22,27,29,11/3,4,5,10ココが見どころ!(ペリー展)各日4回 ◇外国人向け ・10/5受入実施(JICA・民博)[再掲:海外インターン受入] ◇団体向け ・9/25,30,10/1,2ココビ探検隊7校
	20		・外国人向け	1回/年	1回/年	B
	追加		・団体向け【追加実績】	—	1件	A
	—		●国際シンポジウム(開館30周年記念事業)[再掲]	1回/年	—	—
	21		●開港160周年をテーマにした教育普及の観点による展示	1回/年	1回/年	B
	追加		・その他【追加実績】	—	3件	A ・10/16,30ペリー展ギャラリートーク ・10/19,11/9ペリー展石版画デモンストレーション ・11/2ペリー展スペシャル・レクチャー
	22	(2)教育プログラム:子どものアトリエ	●個人むけ講座や学校向けプログラムなどの通常業務:利用者数	25,000人/年	19,897人/年	C [再掲:研修9回]
	23		●アーティストあるいは外部専門文化機関との連携	2講座(個人講座20講座のうち)/年	4講座/年	B ・4/7,14,21ガラス造形作家 ・4/27出品作家共同制作(Meet展) ・7/31パーカッションニスト ・8/19-20メディアアーティスト ・横浜市芸術文化プラットフォーム(市民のアトリエの計画に基づき実施・市民のアトリエ1回と合算):9/20,10/16,30,11/22
	24		●学校プログラム、人材育成事業	90校/年、4回/年	105校/年(再掲:9回/年)	A
	25	(3)教育プログラム:市民のアトリエ	●環境に関する講座や展覧会と連携した講座などの個人向けワークショップに加え、自主的に制作に取り組むオープンスタジオなどの通常業務:利用者数	5,500人/年	6,083人/年	A ・環境:6/2,16&10/6,20みどりアップ ・展覧会連携:4/28 出品作家共同制作(Meet展),8/3-9/1抹茶茶碗(原展),8/24日本画(原展),11/23桑久保徹氏レクチャー(オランジュリー展)[再掲:著名アーティスト連携],11/24複製絵画(コレクション展2期)
	26		●著名アーティスト連携による新分野講座	2講座/年	2講座/年	B ・11/23桑久保徹氏レクチャー ・1/12鈴木理策氏ライブリポートーク
	27		●東京藝術大学連携講座 ※中期Ⅲ期:1講座/2年	1講座/年	0講座/年	C
	28		●横浜市芸術文化プラットフォームによる学校連携	3回/年	5回/年	A (子どものアトリエ4回と合算) ・12/23

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <p>・教育プログラムのうち展覧会関連プログラムについては、目標を上回って開催しており、原展での市内私立中高茶道部による呈茶、オランジュリー展でのピアニストと学芸員のトークなど、特徴あるプログラムも実施しました。</p> <p>・また、ボランティアによる街歩きツアーが定着しはじめ、6月には原三溪市民研究会と連携した原展関連イベントとして、10月には国立民族学博物館とJICAの外国人インターン生に向けて行いました。</p> <p>・何より、教育普及の観点による展示が実現したことは今年度の大きな成果となりました。平成28年度にコレクション展の一部として実施した「描かれた横浜」に続き、9-10月に「絵でたどるペリー来航」をアートギャラリー1で開催し、これまで積み重ねてきた教師の方々との研究やボランティアによる街歩きツアーが展覧会に結実しました。</p> <p>【課題】</p> <p>・大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、館の方針にそった効果的で継続可能な鑑賞教育を館内で検討します。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・鑑賞教育については、企画展やコレクション展との連動により目標を達成した点に加え、これまでの研究等の積み重ねが「絵でたどるペリー来航」に結びついた点を高く評価します。</p> <p>・子どものアトリエについては、多様な分野のアーティストと連携し、子どもの創造性をはぐむ取組がなされたことを評価します。</p> <p>・市民のアトリエについては、企画展に加えてコレクション展とも連携して様々な講座を市民に提供できており、それが集客の実績にもつながっています。</p> <p>・市民協働の取組では、ボランティア運営を見直す中で目標を超えるボランティアの参加実績があった点、様々な施設・地域でのアウトリーチ活動を通じてアートの魅力を伝える取組を行った点を評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・今年度は2月29日以降、新型コロナウイルス感染症によりアトリエの講座の中止を余儀なくされました。今後は感染症対策に万全を期すとともに、美術館としての役割や、横浜美術館の独自性を踏まえて、大規模改修期間中と改修後のアトリエ事業をどのように位置づけ、展開していくか検討が求められています。</p> <p>・大規模改修に伴う休館中も持続可能なボランティア運営等、市民協働の取組を期待します。</p> <p>・大規模改修期間中におけるアウトリーチの実施を視野に、新たなアウトリーチ先の開拓、プログラムの開発を期待します。</p>
<p>【成果】</p> <p>・子どものアトリエでは、25,000人の目標に対し、新型コロナウイルスに関連した2/29以降の講座中止等により、19,897人(80%)と計画を下回りましたが、アーティスト連携について、ガラス造形作家、MEET展出品作家、パーカッションニスト、メディアアーティストによる講座を実施し、意欲的に取り組みました。</p> <p>・なお、アトリエと企画展の共同制作プロジェクトとして、Meet展出品作家とグランドギャラリーでワークショップを行い、その成果作品を会期中にグランドギャラリーに展示しました。</p> <p>【課題】</p> <p>・大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、館の方針にそった効果的で継続可能な子ども向けの造形教育を館内で検討します。</p>	<p>【成果】</p> <p>・市民のアトリエでは、5,500人の目標に対し、6,083人(111%)と計画を上回りました。本年度は、企画展のみならず、コレクション展など多様な展覧会と連携し、抹茶茶碗、日本画、レクチャー、複製絵画の講座を実施しています。また、東京藝術大学映像科との連携については、検討のなかで双方良い形での事業実施は難しいと判断しました。今後は他大学も含めて連携を検討していきます。</p> <p>・なお、アトリエと企画展の共同制作プロジェクトとして、Meet展出品作家とグランドギャラリーでワークショップを行い、その成果作品を会期中にグランドギャラリーに展示しました。</p> <p>【課題】</p> <p>・大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、館の方針にそった効果的で継続可能な中学生以上に向けた造形教育を館内で検討します。</p>

令和元年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

<p>使命</p> <p>(1)国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2)美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3)未来をにう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4)文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。</p>

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績

項目	評価項目	目標の実践	令和元年度計画		実施状況		
			達成指標	目標	実績	説明	
	29	(4) 市民協働: ボランティア等	●子どものアトリエボランティア	20人/年	39人/年	A	4/1-3/31
	30		●美術情報センターボランティア	5人/年	5人/年	B	・2/15[再掲:美術情報センター]
	31		●鑑賞ボランティア	25人/年	81人/年(ビジターサービス・ボランティア含む)	A	(ビジターサービスボランティア含む) ・4月-翌年度末
	32		●ビジターサービス ・横浜シティガイド協会等と連携した活動	2回/年	3回/年	A	・6月 美術館におけるアクセス・プログラム(三重県立美術館学芸員) ・8月 アクティブ・リスニング(NPO法人アーモンドコミュニティ ネットワーク) ・12月 バリアフリー(NPO法人横浜ジェントルタウン倶楽部)
	33		・外国人、障がい者、観光案内へのきめ細やかな対応を行うビジターサービス・ボランティアの推進検討	10人/年	-	-	[再掲:鑑賞ボランティア]
	34		●「原三溪市民研究会」等と共同研究会実施	1回/月	1回/月	B	・4,8,10,3月除く毎月 研究会 ・4/13岡谷・諏訪研修ツアー ・8/3-9/1展示@AG1 ・8/10シンポジウム ・10/12台風,3/14コロナ関連により中止
	35	(5) 市民協働: コレクション・フレンズ	●参加者数の拡大	200口	228口	A	
	36	(6) 市民協働: 各種社会貢献事業	●アウトリーチ ・病院等	2回/年	3回/年	A	・7/17横浜医療福祉センター-港南 ・10/1県立こども医療センター ・10/11市立大学附属病院
	37		・福祉施設	1回/年	1回/年	B	・11/19 K2インターナショナル ※12/18鑑賞とワークショップ@当館
	38		・高齢者施設	1回/年	1回/年	B	・12/5戸部ハマノ愛生園[横浜国立大学連携] ※11/29事前研修会@当館
	追加		・その他【追加実績】	-	2件	A	・4/2,8/3,10 企業 ・10/21,11/1 幼稚園・保育園
	39		●人材育成 ・博物館実習	1回/年	1回/年	B	・7/29-31,8/5-7実施(*8/2-4自習)8人
	40		・子どものアトリエ インターンシップ	5名/年	5名/年	B	・4/1-3/31
	41		・教師のためのワークショップ	2回/年	-	-	[再掲:子どものアトリエ]
3 施設の運営事業		(1) 来館者サービスの充実	●四つの基本方針に従った来館者サービス業務	-	-	-	
政策目標(施設運営①) お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います。	1		1)顧客サービスの質向上	実施	実施	-	1) 委託会社契約に質向上に関する項目追加継続 2) 多様な方々が来館しやすくなる施策を実施 ・団体:36団体に事前 レクチャー提供 ・近隣就業者 ・マークイズ :4/9,5/14,6/11,7/9,8/20,9/10,10/8,11/12,12/10,1/14,2/18 ・8/22 YMM地域交流会 3) パンフレット等整備 ・通常業務実施 4) 植物、ソファ等 設置 ・12/25-1/7門松 ・1/3-7お正月装花
	2		2)顧客サービスの拡大:市民協働				
	3		・個人向け(ボランティア):託児⇒ベビーカー付添車いす付添外国人調査等対応				
			・団体:一般/学校				
			・観光客:レセプション営業				
			・近隣就業者:かもめ/マークイズ				
			3)館内配布パンフレットやサイン				
			・マニュアル策定・マニュアル外の修正				
			・新情報機器				
			・大規模改修前後の計画				
	2		4)季節感あるおもてなし				
	3		□展覧会来館者アンケート「スタッフの対応」評点	4.00以上	4.27	B	
	4		□展覧会来館者アンケート「使い勝手のよさ、清潔さ」評点	4.30以上	4.48	B	
		(2) ショップやカフェの付加価値の向上	●ショップ	-	-	-	
	4		・コレクションを活用したオリジナル商品 *開館30周年記念グッズ(開館30周年記念事業)[再]	1商品/年	-	-	
	5		・企画展関連商品コーナー	1回/企画展	1回/企画展	B	
	6		●カフェ	-	-	-	
	5		・コレクションを活用したオリジナルメニュー	1商品/年	1商品/年	B	・2月:1商品
	6		・企画展関連メニュー	1商品/企画展	1~3商品/企画展	A	・Meet展:3商品 ・原展:2商品 ・オランジュリー展:1商品

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各分野で目標を上回るボランティアの方にご参加いただき、市民の力を活用しています。 ボランティアについては、今年度から、鑑賞ボランティアとビジターサービス・ボランティアとが統合して活動し、アクセス・プログラムやアクティブ・リスニングなど外部の専門家による研修を経て、様々なトークや来館者案内を行っています。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、館の方針にそった効果的で継続可能なボランティア活動を館内で検討します。 	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> フレンズ参加者数は確実に徐々に増えており、当館の理解者、支援者が広がりました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、協力会との関係について、市と美術館の両方の早急な調整が必要です。 	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> アウトリーチでは、従来より引き続き、病院、高齢者施設でのアウトリーチを行い、また、市内の若者自立支援組織と連携し、アウトリーチと当館でのワークショップを実施しています。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、館の方針にそった効果的で継続可能なアウトリーチ活動を館内で検討します。 	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアについては、今年度から、鑑賞ボランティアとビジターサービス・ボランティアとが統合して活動し、アクセス・プログラムやアクティブ・リスニングなど外部の専門家による研修を経て、様々なトークや来館者案内を行っています。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、館の方針にそった効果的で継続可能な美術館運営を館内で検討します。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な来館者サービスを実施することにより、鑑賞の質の向上を行っていることを評価します。 ショップ・カフェについて、開館30周年記念事業としてオリジナル商品を展開し、カレンダーが高評価を受けるなどの実績を挙げている点を評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、お客様の目線に立ったサービスの充実や柔軟な運営を図っていただくとともに、大規模改修後を見据えた来館者サービスの体系の整理を期待します。
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 記念カレンダーは「第71回 全国カレンダー展」の「第3部門」(出版・小売販売・既成カレンダー)にて、「文部科学大臣賞」と「金賞」を受賞しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、館の方針にそった効果的で継続可能なショップおよびカフェ事業を館内で検討します。 	

令和元年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

使命	
(1)国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2)美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3)未来をになう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4)文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。	

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績

評価項目		令和元年度計画			実施状況		
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明		
政策目標(施設運営②)財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します。	7	(1) 適正な施設管理	●大規模改修:大規模改修の実施にむけ市と協働	実施	実施	-	
	8		●日々の適正な施設管理:安全管理事故	0件/年	0件/年	B	
	-		●災害対応	-	-	-	
	9		・マニュアルの最新化と共有	1回/年	1回/年	B	・11月
	10		・訓練	2回/年	2回/年	B	・8/28,2/18
	-		●開館30周年事業				
	-		・企画展[再掲]	入場者数28.3万、企画展アンケート4.0以上/年	-	-	
	11		・30周年国際シンポジウム	1回/年	1回/年	B	・6/8シンポジウム,6/9分科会
	12		・記念誌発行	1回/年	1回/年	B	・10/31発行(日英別冊)
	13		・式典開催	1回/年	1回/年	B	・4/12[財団専門館連携]
	14		・グッズ制作	1回/年	3回/年	A	・4/12 コレクションをラベルに用いたワイン、パッケージに用いたお菓子販売開始 ・9/20 コレクションを用いたカレンダー販売開始:第71回全国カレンダー展「文部科学大臣賞」「金賞」受賞
	追加		・その他【追加実績】	-	3件	A	・9/27-29 30周年音楽舞台@KAAT[NHK連携] ・10/9-15横浜美術館逢坂館長とカナダのアートをめぐる旅[民間旅行会社連携] ・11/1-4 パースデー・ウィークエンド:11/2呈茶席(裏千家青年部),11/3記念誌出版記念トークイベント(森村泰昌氏)ほか
	-		(2) 経営基盤の強化	●ファンドレイジング	-	-	-
	15		・法人協賛制度支援者	前年度同数(9社)/年	前年度2社減/年	C	・実績7社(目標9社)
	追加		・その他【追加実績】	-	2件	A	・5/27,2/18特別鑑賞会 ・9/7-8SUV
16	(3) 人材強化	●学芸員、エデュケーター育成	実施	実施	-	・財団スケジュールに従い実施	
4 その他の業務	1	●市の政策と事業の相互連携:政策経営協議会	4回/年	4回/年	B	・4/23,7/23,11/19,1/21 ※5/31,6/3,19,8/27,10/18,21外部評価委員の対応	
	2		●外部意見の取入れ 外部有識者を交えた教育普及企画運営会議	1回/年	2回/年	A	・4/6教育普及検討会議 ・1/27 勉強会
	3		●年報発行	1回/年	1回/年	B	・12月発行
5 人員計画	1	過去の実績を踏まえ、高い専門性を発揮できる組織として、事業展開と施設の安全安心な運営を強化	46人 ・館長1人 ・副館長2人 ・グループ長5人 ・チームリーダー9人 ・担当リーダー・職員29人	52人 ・館長1人 ・副館長2人 ・グループ長4人 ・担当グループ長1人 ・チームリーダー9人 ・担当リーダー・職員35人	-		
	-	6 留意事項	-	-	-		
	1	業務の基準に基づいた適正な取扱い	実施	実施	-		
2	法令の遵守と個人情報保護	コンプライアンス窓口を設置し対応	実施	実施	-	・財団にて設置済	
3	個人情報保護研修	1回/年	1回/年	B	・2月 全職員実施		
4	情報公開への積極的取組	財団事務局に情報公開窓口を設置し対応	実施	実施	-		
5	市及び関係機関等との連絡調整	横浜市や関連機関との連絡緊密化	実施	実施	-		
6	その他 1)許認可及び届出等 2)施設の目的外使用 3)人権の尊重 4)近隣対策 5)重要書類の管理 6)行政機関が策定する基準等の遵守 7)法令の制定及び改正への対応	法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施	実施	実施	-		

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館30周年事業については、3つの展覧会に加え、当財団内の専門館と連携した式典(4月)、大規模改修等を経験した国内外美術館関係者を招聘して美術館の意義を探究した国際シンポジウム(6月)、市民によって選ばれた当館コレクションによる記念カレンダーの制作(9月)、劇作家や小説家などが参画して当館に関する記憶を喚起し想像力で未来を予測することを試みた記念書籍の発行(10月)など、多彩で大規模な事業を実施しています。 ・さらに、他組織と連携し、当館コレクションを活用した音楽舞台の上演(9月)や、今年度で解散するコレクション・フレンズの方々とカナダでの当館コレクション巡回展を見に行くツアー(10月)を開催したほか、11月3日の30周年の前後4日間をパースデー・ウィークエンドとし様々なイベントを行うなど、他館に例のない多彩さと規模で充実した活動を展開しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、館の方針にそった効果的で継続可能なリニューアルオープン記念事業を館内で検討します。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館30周年にあたって記念誌の発刊や式典の開催など、市民や指定管理者が運営する他の専門館、他団体などと連携して多彩な事業を遂行したことを評価します。 ・適正な施設管理が日々行われており、安全な運営が実現されている点を評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修後を視野に入れた個人・法人からの寄付の枠組み作りについて、検討を進めていただくことを期待します。
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業連携プログラムHeart to Artについては7社との契約締結となり、昨年度と比して2社減と計画を下回りましたが、日本経済新聞社(10/3)に企業向けアウトリーチが掲載されるなど美術界の注目を集めています。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、協力会との関係について、市と美術館の両方の早急な調整が必要です。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他の業務については、問題なく実施できました。 ・また、業務に必要な人員体制を確保できました。 ・法令を遵守し、本市及び関係機関と連携しながら施設の管理運営が行われました。
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通り進捗しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、館の方針にそった効果的で継続可能な人材採用・育成および組織編制を館内で検討します。 	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通り進捗しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、市の方針にそった効果的で継続可能な施策を館内で検討します。 	

令和元年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

<p>使命</p> <p>(1)国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2)美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3)未来をにう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4)文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。</p>

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績

評価項目		令和元年度計画		実施状況		
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	
7 特別事業	1	大規模改修	実施設計および引越しについて、市の計画に基づいた迅速な対応と協力	実施	実施	—
	2	夜間開館	企画展会期中の毎金土夜	実施	実施	— 毎週金土,1/12(日)
8 収支計画			(円) 収入合計 1,409,520,000 指定管理料収入 865,854,000 利用料金収入 70,815,000 事業収入 322,451,000 その他 150,400,000		1,328,226,369 865,854,000 74,570,696 320,518,250 67,283,423	—
			(円) 支出合計 1,409,520,000 人件費 374,114,000 事務費 13,250,000 事業費 504,661,000 夜間運営費 48,228,000 作品等移転準備費 50,000,000 管理費 194,295,000 その他支出 224,972,000		1,307,143,182 342,241,202 10,772,828 436,138,358 48,228,000 50,000,000 206,901,957 212,860,837	—

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画通り進捗しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、市の方針にそった効果的で継続可能な施策を館内で検討します。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模改修では、引き続き設計や運営面で多岐にわたる調整を担ったことを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> Meet展の助成金獲得や、原展及びオランジュリー展の入場者数増により事業収入が増収となりました。収益を、Windows10への移行に伴う各種ソフトウェアの更新やデジタル無線機の整備等に投資し、黒字決算となりました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模改修後の美術館の姿を描くにあたり、指定管理料について、市と美術館の両方の早急な調整が必要です。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画展の助成金獲得や集客の好調により、収支面も良好でした。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模改修後を視野に入れた施設運営を期待します。

目標項目		実施状況	
項目	目標の実践	目標水準(年度計画)	特記事項
総合			

評価	
自己評価	行政評価
<p>本年度は、コレクションを中心に様々な活動を行うことで美術館にとってのコレクションの意義を伝えると同時に、他館に例のない多彩さと規模の30周年記念事業を通年にわたって展開し、当館の存在感を発信しました。企画展では、コレクションを巡って企画された3展ともに計画を上回る来場者がありました。</p> <p>当館コレクションについては、カナダで写真展が開催されたことは大きな成果となりました。同時に、大規模改修後の公開に向けて、作品画像の撮影、美術情報センターが所蔵する教育ビデオのデジタル化にむけて準備を進めています。</p> <p>教育プログラムについては、鑑賞教育では、教育普及の視点から当館コレクションを読み解いた展覧会に多くの来場者が訪れ、造形教育では、子どものアトリエでアーティスト連携講座が増え、市民のアトリエで企画展のみならずコレクション展など様々な展覧会との連携講座を行い、当館の特徴である多機能性を発揮したプログラムが実現しています。</p> <p>30周年記念事業では、3つの展覧会に加え、式典、国際シンポジウムの開催、記念カレンダー、記念書籍の発行、他組織と連携した音楽舞台の上演、パースデー・ウィークエンドでのイベント開催など、充実した活動を展開しました。</p> <p>なお、10/12-13には台風、2/29-3/31には新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館が続き、非常時における安全かつ柔軟な館運営を求められる年となりました。</p>	<p>・今年度の業務実績としては、「横浜美術館開館30周年記念」としての3つの企画展が集客面で成功しました。さらには、海外巡回展を開催するなど、国内外に広く活動を発信し、良好な成果を挙げました。</p> <p>・開館30周年関連ではそれ以外にも式典、国際シンポジウム、記念カレンダーの制作、パースデー・ウィークエンドの開催等、多彩な事業を実施し、開館当初から今日に至るまでの横浜美術館の魅力を多くの方に伝え、存在価値を高めることに貢献しました。</p> <p>・教育普及事業における幅広い連携やボランティア、アウトリーチなどに代表される市民協働など、各部門の活動によって横浜市における文化芸術活動のすそ野を広げ、ひいては横浜美術館の付加価値が高まることにもつながっています。</p> <p>・経営面でも、好調だった集客や企画展開催に伴う助成金の獲得等で事業収入が増収となり、安定した運営につながった点が高く評価できます。</p> <p>・一方で、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2月29日から休館を余儀なくされ、NAPが来年度に延期になり、アトリエ講座が中止になるなど大きな影響を受けました。影響は長期化が見込まれており、今後は感染症対策に万全を期すとともに、事業の実施や施設経営とどう折り合いをつけていくのか、長期的な視点が求められています。</p> <p>・大規模改修に向けては、引き続き準備を進めるとともに、大規模改修期間中や改修後も視野に入れた取組が進むことを期待しています。</p>